

四谷大塚（11/15実施）合不合判定テスト 全国最多の21,925名が受験 過去10年間で最多数を記録 「2010年中学入試 最新動向レポート」

中学受験の四谷大塚(本社:東京都中野区)が、11月15日(日)、未来のリーダーを目指し国立・私立中学校を志望する小学6年生を対象に『(第3回)合不合判定テスト』(志望校判定を行う全国レベルの公開テスト)を実施。受験者数は、中学入試の模擬試験としては年間を通し、全国最多となる21,925名(昨年11月比87名増加・0.4%増加)でした。これは、過去10年間の当テストの中でも最多となる数字であり、中学受験に対する意識の高まりが反映された結果と見ています。

■背景にある社会情勢

政府は20日発表した11月の月例経済報告で、日本経済は物価が持続的に下落する「緩やかなデフレ状況にある」と正式に表明しました。月例報告で「デフレ」と認定するのは2006年6月以来、3年5カ月ぶり。圧倒的な需要不足に伴う物価下落は、企業収益の悪化や賃下げ、失業増につながり、景気の腰を折りがねません。税収が減って一段の財政悪化を招く恐れもあり、つぶさにみれば日本は10年以上にわたって物価の下落基調から抜け出せていないことになります。

だからこそ、今の日本が抱える諸問題を打破する源流対策として、日本を引っ張るリーダーの育成が最重要な政策と考えます。日本には有名な「米百俵」の故事があり、諸外国では「国家百年の計は教育にあり」として、政権が代わっても次代を担う指導者の育成だけは国家政策の基本に据えています。

■中学入試の動向(概要)

さて、来春の中学入試においては、新たな変動要因が数多くあります。男子では、東京・神奈川の入試解禁日である2月1日に来春開校の「早稲田大学高等学院中学部」が試験を構え、従来とは違った志望動向が見られます。また、女子では今春のサンデー・ショックからの回帰の年にあたり、2008年入試に近い形で志望者は推移しますが、そこに新たな変動要因も加味しなければなりません。他にも中央大学附属中学校など新設校の開校、共学化への動き、大学附属校化の動き、公立中高一貫校の新規開校といった、今春とは異なる要因は入試の状況をがらりと変えてしまう可能性があり、最新の志望動向を見極めたうえでの冷静な分析が例年以上に必要となるといえます。

2009年入試の首都圏における実受験者は54,000名、実受験率17.8%と何れも過去最高を記録したと推定しております。これは、先の見えない深刻な経済情勢であるからこそ、保護者及び受験生は、より未来を見据えた選択をし、改めて「教育」の重要性を強く認識され、長いお子様の人生を考えたうえでの選択をされ、「より良い学校を厳選する」＝「受験生にとって最良の教育環境を厳選する」という流れは来年で降も継続していくと分析しております。

2010 年入試に向かって

① 志望者を多く集めた中学校は、男子：芝(2回)、女子：浦和明の星女子

今回の合不合判定テストで、志望校として多くの受験生を集めた中学校は 9 月・10 月実施の合不合判定テスト同様、男子では芝(2回)が 1,412 名、女子では浦和明の星女子が 1,128 名となっています。

志望者数の最上位には入学試験日が集中する 2/1~3 よりも、1 月や 2/4 以降に実施される試験が毎回入ります。志望者数全体は併願者を含みます。よって比較的試験の集中しない有力校にエントリーが集中する傾向があるためです。別の観点から見ると、2/1 や 2/2 で志望者上位に入ってくる試験は、多くの受験生に支持されているといえます。

実際の入試においても 1 月入学試験は合格者に対して入学者が少ない傾向(2/1 を第一志望とし、合格した場合入学は見送る)がみられ、後半日程の入学試験は出願者数に対して実受験者数が減る傾向(2/1 を第一志望とし、合格した場合その後の受験を見送る)が特徴となっています。

《表 1:男子 志望者数ベスト 10 (試験回)》

	学校名	入試 教科	入学 試験日	今回テストでの 志望者数	昨年11月の 志望者数	増減	昨年比
1	芝2	4	2月4日	1,412	1,405	7	100.5%
2	立教新座	4	1月25日	1,263	1,439	▲ 176	87.8%
3	浅野	4	2月3日	1,263	1,222	41	103.4%
4	市川	4	1月20日	1,159	1,168	▲ 9	99.2%
5	渋谷教育幕張	4	1月22日	897	948	▲ 51	94.6%
6	開成	4	2月1日	882	895	▲ 13	98.5%
7	東邦大東邦(前)	4	1月21日	765	694	71	110.2%
8	本郷3	4	2月5日	764	778	▲ 14	98.2%
9	麻布	4	2月1日	758	737	21	102.8%
10	早稲田	4	2月1日	677	702	▲ 25	96.4%

《表 2:女子 志望者ベスト 10 (試験回)》

	学校名	入試 教科	入学 試験日	今回テストでの 志望者数	昨年11月の 志望者数	増減	昨年比
1	浦和明の星女子	4	1月14日	1,128	1,139	▲ 11	99.0%
2	頌栄女子学院2	4	2月5日	929	929	0	100.0%
3	豊島岡女子学園	4	2月2日	723	568	155	127.3%
4	市川	4	1月20日	663	636	27	104.2%
5	洗足学園3	4	2月5日	614	479	135	128.2%
6	女子学院	4	2月1日	602	895	▲ 293	67.3%
7	淑徳与野	4	1月13日	515	431	84	119.5%
8	青山学院	4	2月2日	503	405	98	124.2%
9	桜蔭	4	2月1日	485	594	▲ 109	81.6%
10	共立女子C	4	2月4日	443	470	▲ 27	94.3%

■サンデー・ショックからの回帰状況

2009 年入試においては、女子学院、フェリス女学院、立教女学院、東洋英和女学院(A)など女子プロテスト系の学校を中心に試験日変更がありました。来年の 2010 年は従来日程に戻ります。

試験日程の変更により、併願パターンがサンデー・ショック時の「2/1 桜蔭・2/2 女子学院」より「2/1 桜蔭・2/2 豊島岡女子学園」に戻ったことが上記表 2 より読み取れます。同じく桜蔭の志望者減少に関しても、同様のことがいえます。

② 第一志望者を多く集めた中学校は、男子：開成、女子：女子学院

第一志望校は受験生にとって「あこがれ」で、学習に取り組むモチベーションを高める存在です。ランキング形式で見たときに、回を重ねても学校が大きく変わらないことも第一志望校の特徴です。

《表 3:男子 第一志望者ベスト 10 (試験回)》

	学校名	入試 教科	入学 試験日	今回テストでの 第一志望者数	昨年11月の 志望者数第一	増減	昨年比
1	開成	4	2月1日	520	542	▲ 22	95.9%
2	早稲田	4	2月1日	508	559	▲ 51	90.9%
3	麻布	4	2月1日	483	532	▲ 49	90.8%
4	慶應普通部	4	2月1日	407	462	▲ 55	88.1%
5	駒場東邦	4	2月1日	400	410	▲ 10	97.6%
6	武蔵	4	2月1日	354	365	▲ 11	97.0%
7	芝	4	2月1日	352	363	▲ 11	97.0%
8	浅野	4	2月3日	333	279	54	119.4%
9	筑波大駒場	4	2月3日	293	255	38	114.9%
10	早稲田実業	4	2月1日	282	303	▲ 21	93.1%
11	海城	4	2月1日	269	347	▲ 78	77.5%
12	桐朋	4	2月1日	251	332	▲ 81	75.6%
13	早大学院	4	2月1日	247	2010年開校		

■2010年開校 早稲田大学高等学院中学部の影響

13位の早稲田大学高等学院中学部参入の影響が表3からは読み取れます。早稲田、早稲田実業においては、当初は早稲田大学高等学院中学部の開校発表がされた後も第一志望者の増加傾向が見られていましたが、10月以降の合不合判定テストでは昨年比減少傾向で、今回はそれぞれ9.1%減少、6.9%減少となっています。

また、海城(昨年比77.5%)、桐朋(昨年75.6%)と男子難関進学校から「早稲田大学高等学院中学部」への影響は継続して出ています。

《表 4:女子 第一志望者ベスト 10 (試験回)》

	学校名	入試 教科	入学 試験日	今回テストでの 第一志望者数	昨年11月の 志望者数第一	増減	昨年比
1	女子学院	4	2月1日	474	509	▲ 35	93.1%
2	桜蔭	4	2月1日	383	428	▲ 45	89.5%
3	雙葉	4	2月1日	255	281	▲ 26	90.7%
4	立教女学院	4	2月1日	249	246	3	101.2%
5	フェリス女学院	4	2月1日	237	202	35	117.3%
6	豊島岡女子学園	4	2月2日	233	288	▲ 55	80.9%
7	青山学院	4	2月2日	221	215	6	102.8%
8	香蘭女学校	2	2月1日	218	168	50	129.8%
9	吉祥女子	4	2月1日	201	162	39	124.1%
10	鷗友学園女子	4	2月1日	164	115	49	142.6%

※香蘭女学校の入試教科は、2教科または4教科選択です。

③ 2010年注目の新設校の状況

前述の早稲田高等学院中学部は志望者数 298 名(うち第一志望 247 名)を集めています。

同じく、有力大学の附属校として開校予定の中央大学附属は 1 回(2/1)が 249 名(男子 118 名、女子 131 名)、2 回(2/4)が 677 名(男子 371 名、女子 306 名)とこちらも多くの志望者を集めており、注目の高さが伺えます。

また、正式な学校名の決定がなされた都立の中高一貫校が 4 校新設されますが、富士高附属(中野地区)28 名(男子 12 名、女子 16 名)、大泉高附属(練馬地区)42 名(男子 24 名、女子 18 名)、南多摩中等教育学校(八王子地区)27 名(男子 10 名、女子 17 名)、三鷹中等教育学校(三鷹地区)43 名(男子 23 名、女子 20 名)という志望者状況です。

参考データ 1:

2009 年首都圏(小学 6 年生)児童数 303,284 名の 17.8%にあたる 54,000 人が中学受験に臨みました。中学受験率・中学受験者数いずれも過去最高を更新しました。

全国的には少子化の流れですが、東京を中心に、都心回帰による人口流入が続いており、現 6 年生は 303,493 名(前年比 209 増加・0.1%増加)と微増しています。

参考データ 2:

■三大模試の受験者数推移

2008年 実施月	四谷大塚		日能研		首都圏模試		合計	
	受験者数	前年比	受験者数	前年比	受験者数	前年比	受験者数	前年比
4月	14,026	115.4%	12,784	100.9%	11,126	109.0%	37,936	108.3%
7月	15,470	106.3%	14,078	95.3%	14,183	100.2%	43,731	100.6%
9月	20,173	99.7%	14,918	101.2%	16,096	97.0%	51,187	99.3%
10月	20,869	103.2%	15,409	94.1%	16,647	95.0%	52,925	97.8%
11月	21,838	100.7%	15,435	102.5%	17,832	105.3%	55,105	102.7%
12月	21,104	102.5%	15,296	94.7%	17,522	97.0%	53,922	98.4%
合計	113,480	103.7%	87,920	98.0%	93,406	99.9%	294,806	100.7%

2009年 実施月	四谷大塚		日能研		首都圏模試		合計	
	受験者数	前年比	受験者数	前年比	受験者数	前年比	受験者数	前年比
4月	13,607	97.0%	11,968	93.6%	10,431	93.8%	36,006	94.9%
7月	15,323	99.0%	13,213	93.9%	13,026	91.8%	41,562	95.0%
9月	20,140	99.8%	14,378	96.4%	15,006	93.2%	49,524	96.8%
10月	20,155	96.6%	12,811	83.1%	15,057	90.4%	48,023	90.7%
11月	21,925	100.4%	14,183	91.9%	16,400	92.0%	52,508	95.3%

11 月実施の模試日程は、11/15 合不合格判定テスト(四谷大塚)、11/1 センター模試(日能研)、11/3 統一模試(首都圏中学模試センター)

今後の四谷大塚公開テスト日程

■「合不合格判定テスト」

12/13(日)

■「学校別判定テスト」

11/23(月祝)「筑波大附属駒場・駒場東邦・栄光学園・慶應中等部・フェリス女学院」

12/6(日)「開成・桜蔭・灘」

11/15 実施合不合格判定テスト(第3回)の
80 偏差値及び 50 偏差値は、下記をご参照ください。
偏差値一覧以外にも、合不合格判定テスト、保護者説明会(詳細)のほか、
中学受験動向等資料は、ホームページからご覧になれます。

[四谷大塚 公式ホームページ](#) [四谷大塚ドットコム](#)

※下記をクリックするとファイルが開きます

【11/15 実施 合不合格判定テスト(第3回) 80/50 偏差値一覧】

【男子】[80 偏差値](#) / [50 偏差値](#)

【女子】[80 偏差値](#) / [50 偏差値](#)

■株式会社ナガセについて■

1976 年創立。大学受験向け予備校の東進ハイスクール(首都圏を中心に 88 の直営校)や、全国 47 都道府県に 800 校舎を配す東進衛星予備校(フランチャイズ契約)を展開。質の高い授業と独自の学習システムによって、東大現役合格 445 名(2009 年実績)など高い合格実績を実現し、現在では約 10 万人の現役高校生が通う、日本最大規模の予備校となっています。2006 年 10 月から四谷大塚(中学受験)、2008 年 2 月よりイトマンスイミングスクールをグループ化するほか、大学生・社会人を対象に東進ビジネススクールを開講。

また、2010 年 10 月より「セサミストリート」の教材を使用した幼児・児童向け英語教室「東進こども英語塾」の開設を予定しており、「社会に貢献する人財を育てる」を教育目標とした幼小中高大一貫教育サービスを展開しています。

■四谷大塚について■

1954 年創立。首都圏を中心に、多数の合格者を有名中学に送り出している学習塾。中学受験最強の教科書“予習シリーズ”、全国最大となる 2 万人を超える受験生が競う“合不合格判定テスト”、首都圏の直営 19 校舎(2009 年 7 月に大宮校舎・11 月に豊洲校舎が開校)での質の高い“レベル別指導”、そして豊富な“教育情報”を提供しています。

また、首都圏で定評のあった「四谷大塚」のノウハウを活かして、日本全国の有力塾や東進衛星予備校の加盟校との新ネットワーク「四谷大塚NET」のサービスを、2008 年 2 月から開始しています。

＜本件に関するマスコミの方のお問い合わせ先＞

株式会社ナガセ 広報部:市村、加藤

〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町 1-29-2

電話 0422-44-9001 FAX0422-44-9129

ホームページwww.yotsuyaotsuka.com E-mail pub@toshin.ac.jp